

CONTENTS

自作自演194 眞木啓彰・井村正和 2

JIAに入会して 加藤正司・近藤万記子・大川孝信・佐藤隆史・高木一滋 3

第3回 フランスと日本の関係～対外文化政策のいま～
「ボルドー日本館と伝統工芸の展覧会-地方都市を舞台にした日仏文化交流-」 松本茂章 4

第32回 JIA 東海支部設計競技 1次審査結果 テーマ「首相官邸」 矢田義典 6

第3回 JIA 東海住宅建築賞2015 表彰式×講演会×シンポジウム 森本雅史 7

JIA 東海支部 会員集会・建築家講習会 支部会員集会・講習会に参加して 原眞佐実 8

JIA 静岡発 ものづくりフェア
「JIA 静岡 ものづくりフェア」開催 石橋 剛・高島ゆかり 9

愛知発 事業委員会 見学会・セミナー
「天使の森」/不燃・防腐木材工場見学会+環境セミナー「環境と産業を考える」 西村和哉 10

会員のステージ
とよはし都市型アートイベントsebone2015「段ボールカード造形教室」 黒野有一郎 11

理事会レポート 鈴木利明 12

東海支部役員会報告 車戸慎夫 13

保存情報 第169回 設楽町立田峯小学校普通教室棟 鈴木利明 14
石垣に惹かれて 尾関利勝

法人協力会主催研修会 酒井良和 15

地域会だより 15

編集後記 石田博英・谷口 元 16

東海の集落 9

尾鷲市須賀利町。リアス式の入り江に面した小さな漁業の集落である。現在人口は三〇〇人弱だが、昭和三〇年頃には一四〇〇人以上が暮らしていたそうだ。海岸近くまで山が迫る地形で、湾に面した南斜面に住宅が密集しているが、家々に挟まれた狭い路地を歩くと空家や空店舗が目立つ。散策して出て出合う人、港で漁業に携わっている人は高齢の人ばかりで若者の姿を目にするのはなかった。家の密集度と対照的にあまりに静かで寂しさを感じた。何軒かの玄関には手形を押した紙が貼ってあり、「祝米寿」の文字とともに氏



須賀利の路地の風景

名が書かれている。他では見かけることのない習風だ。津波避難路の看板のある斜面を登ってみると、集落を見下ろすことができる。いぶし瓦の家が平地から斜面にかけてびっしりと地形に張り付くように建っていて壮観な風景だ。昭和五七年に県道が開通するまでは車道がなく、徒歩か巡航船が交通手段だったそうだ。文明に取り残された感がある漁業の集落だが、静かな空気の中にさざ波の音が漂う美しい集落である。日本の里一〇〇選に選定されている。

生津康広
生津建築設計室アーキハウス





眞木 啓彰 (JIA愛知)

MA 設計室 (名古屋市守山区大森八龍2-630 TEL 052-799-0171 FAX 052-799-0170)

ソーシャルネットワーキングサービス

ここ2年ぐらいでしょうか、毎日必ず見るようになったのがソーシャルネットワーキングサービス (SNS) の「Facebook」です。最初のうちは、何ができるのか、どこまで情報を開示していいのを探りながらやっていました。情報の内容は、仕事上のことが中心なので自社のホームページでも開示しているのと変わりはありません。少しでも仕事につながればと思い始めたのが本音です。

しかしながら、最近の楽しみ方は少し変わってきました。学生時代の友人からメッセージが来て、30年ぶりに再会し、ゴルフに行くことになりました。茨城の友人がジュニアのソフトボールクラブの監督をしていて、全国大会に向けて頑張っている様子が投稿されています。愛犬仲間の「トイプードル愛好会」からは、毎日のように可愛いトイプードルの画像が届いたりしています。家では会話が少ない息子の様子は、内緒で覗いたりしています。それを見ることによって安心することもできます。海外にいる友人ともリアルタイムで情報交換ができます。もちろん無料です。素晴らしい情報交換ツールだと思います。今のところ落とし穴は知りませんが、気を付けながら利用したいと思います。



<https://www.facebook.com/hiroaki.maki.796>



井村 正和 (JIA愛知)

井村建築設計一級建築士事務所 (春日井市高山町2-11-1 TEL 090-4167-6413 FAX 050-5865-2704)

「春日井まつり」にて

先月、私の地元春日井で長年開催されている「春日井まつり」にて職業体験ブースを出展させていただきました。春日井まつり自体は今年で39回目、その中の一つである職業体験イベントは9回目を迎え、既に市民に認知されており「今年も楽しみにして来ました。」というお客さんも少なくありません。主催は春日井商工会議所青年部という商工会議所の下部組織にあたる団体で、主に地元の経営者から構成されています。昨年より私も入会させていただいており、同じく会員の地元建築家と共同出展という形で「図面かき体験ブース」を2日間出展しました。

内容としては子供用に製作した小さなT定規を使い図面をトレースしてもらうという物です。専門的な道具を使い (今は実際にはマウスですが)、綺麗な線を引き、それで建物ができあがっているという小さな手作業から大きな建築物という結果までの流れを感じて、世の中にある沢山の職業のなかの一つである建築家という職種を知ってもらうことが目的でした。

対象来場者が小学校低～中学年ということもありなかなか思い通りいかない部分もありました。線をまっすぐ引くのは思ったより難しい、すぐ飽きる、図面描き体験はいつの間にか色塗り体験へ、など、ですが、この2日間通じて100名弱のお子さん達に体験してもらい、またこのブースを通じて多少なりともわれわれの職業を市民の方に知ってもらえるきっかけにはなったかな、と思える暑い2日間でした。



職業体験「図面かき体験」ブース

回 JIAに入会して



加藤 正司

(JIA 愛知・準会員)

堀尾佳弘建築研究所 (安城市明治本町3-7 TEL 0566-74-1000 FAX 0566-74-1285)

まだ修行中の身なのですが、準会員として本年より入会することとなりました。建築とは無縁だった自分が26歳のときに、縁あって今の事務所に入ってから早いもので15年が経ちます。この入会を機に自分の建築に対する考え方は何だったのかとあらためて考える機会をいただいたように思います。

建築の世界は多岐に渡り幅広く、多種多様な考え方があり、影響を受けやすい自分は、一本筋の通った考え方に至っていないことに気がきました。自分自身の軸を定めることが第一優先で、常にその軸からの距離感を見つめることでしか、建築に対する考え方が構築できないということです。

今の事務所へ入るとき、周りのランドスケープとの関係性を重視した新しい日本建築を提案したいとの考え方に共感していただいたことを思い出します。15年経った今だからこそ、そのときの原点に戻り、自分自身を見つめ直し、建築に対する考えの軸が、今の自分の考え方と合っているかを確かめる機会にしたいと思います。



近藤万記子

(JIA 愛知・正会員)

ホームデコール設計事務所 (名古屋市名東区宝ヶ丘8-5 TEL 052-526-1580 FAX 052-526-1581)

設計事務所を開設して12年。力量もビジョンも足りないまま勢いだった気がします。以前、海外で自分の職業を説明するのにアーキテクトとおこがましく言えなかったのは謙虚さではなく努力不足を猛省したから。日本以外の国でも建築家という言葉のなんと重いことか。ずっとその反省を抱えてきました。

でも素晴らしい建築家像を自分のロールモデルにできるとは思えない。ならば自身なりに真摯に建築に向き合っていれば何か新しいシゴトを生み出していけるのではないかなと思うこの頃です。変わっていく時代を直視して。

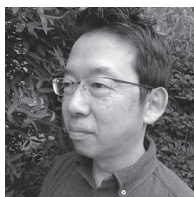


大川 孝信

(JIA 静岡・正会員)

石井建築事務所 (熱海市田原本町3-1熱海魚熊ビル2階 TEL 0557-82-4171 FAX 0557-82-4174)

長年組織事務所において自分の立ち位置が変わってゆく中で、もう一度原点に立ち返って設計への取り組み方について考え直す良い機会かと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



佐藤 隆史

(JIA 静岡・正会員)

石井建築事務所 (熱海市田原本町3-1熱海魚熊ビル2階 TEL 0557-82-4171 FAX 0557-82-4174)

JIAに入会いたしました。主にリゾート性のあるホテル旅館の設計監理に携わっております。よろしく申し上げます。



高木 一滋

(JIA 静岡・正会員)

高木滋生建築設計事務所 (静岡市葵区春日3-10-12 TEL 054-255-1411 FAX 054-255-1412)

募集!

「ARCHITECT」では随時、会員からの原稿、企画を募集しております

「自作自演」・・・建築・まちについて、また趣味や最近の関心事など
「会員のステージ」・・・JIA以外の会員の活動について
「東海とっておきガイド」(おすすめの建築・食)・・・それぞれの紹介+建築写真1枚、食の写真1枚
すべて締め切りは、発行月の前々月の月末です。また、連載その他の記事の企画案も募集しています。

「ARCHITECT」編集部 (建築ジャーナル 山崎)
〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-31 吉泉ビル7階
TEL : 052-971-7477 FAX : 052-951-3130
Eメール : yamasaki@kj-web.or.jp



ボルドー日本館と伝統工芸の展覧会 — 地方都市を舞台にした日仏文化交流 —

松本茂章 | 公立大学法人 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

人気都市ボルドー

仏南西部のボルドー市は、市内を流れるガロンヌ川の蛇行に沿って「月」の形をしている。このため、「月の港」と呼ばれ、大西洋を行き交うための貿易港として大いに繁栄した。都市計画によって18世紀に生まれた旧市街地には石造り建築が整然と立ち並び、2007年にユネスコの世界遺産に登録された。2015年にはフランスで一番住みたい都市を尋ねる民間調査で第1位となるなど、現在、とても注目される都市である。

筆者は2015年8月25日-31日、同市を訪れた。河岸を歩いていると、青く塗られた船体の帆船が接岸され、大勢の人たちが見学していた。あとで調べたところ、仏の侯爵ラファイエット(1757-1834)が米独立戦争を応援するために渡米する際に乗り込んだ帆船を、木造で復元したものと分かった。パリで発行される日本語新聞『オヴニー』によると、非営利団体が1997年から他の港で復元プロジェクトを進めてきたそうで、偶然、

河岸に寄港していたのだ。港町らしい風情を感じることができた。

ボルドー市人口は約24万人。近郊のコミューンを含めた都市圏は約85万人。アキテーヌ地方圏の首府でもある*1。ボルドーといえば路面電車(トラム)。2003年に開業して以来、現在は3路線計約50キロまで延伸された。3路線は中心市街地で交差して乗り換えられ、近郊の住民や学生が都心に出てきやすい。このため目抜き通りのサント・カトリヌ通りは平日でも大勢の人々が行き交う。コメディ広場に面した国立ボルドー歌劇場は「グラン・テアトル(大劇場)」の愛称で親しまれ、劇場前の階段はにぎわっている。地方都市というと、日本では商店街の「シャッター銀座」問題が指摘されているが、ミッテラン政権の1980年代から地方分権を進めてきた仏では地方都市の人口が増えて元気なのだ。

ボルドー日本館

にぎわう中心市街地の一角に日本館(La Maison du Japon)がある。パリ14区の国際大学都市の留学生寮と同じ名前だけに訪れてみた。公的な施設のように映るが、2001年に開業した純粋民間施設である。1905年に改装された古い建物の地上1階と地下1階を借りており、地上1階は日本関連の雑貨

店(200平方メートル)。陶磁器、着物、箸、食料品など約1000点が並ぶ。地下1階にはサロン(展示室)(30平方メートル)、日本語教室(32平方メートル)、日本料理教室(54平方メートル)の3室が備わっている。サロンでは、美術展のほか音楽会などの文化事業を開催でき、日本語教室も展覧会場に使える。

日本人の進藤武則(1952年生まれ)が、仏人の妻フランソワとともに日本館を共同経営する。進藤は秋田県の生まれ、東京の大学を卒業した。学生時代は空手部に所属して鍛錬を重ね、卒業後の1976年、ボルドー大学に留学。学内空手クラブの指導を始めた。市内や近郊の道場に出向いて指導員を務め、一時は計5カ所の道場で教え、計1000人近くを指導したという。しかし夏のバカンスには道場が閉鎖されるので、年間を通じた安定収入を得ることは難しかった。そこで「1984年、日本料理店『相撲』を開業した。パリ以外の本格的和食店は珍しく、仏人の客でにぎわった」と進藤は振り返る。20年近く経営したものの、体を壊して日本料理店を廃業。現在は日本館の経営に専念している。

進藤はアキテーヌ日本人会会長でもある。1980年代後半の同会立ち上げ時から関わり、初代事務局長を務めた。1901年法に基づくアソシエーション(非営利団体)であり、後述するように近年、日本の伝統工芸作家らのグループ展を主催した。

日本文化の展覧会

日本館の地下サロンは、日本文化の関係



ボルドー日本館の外観。地下1階にサロンなどがある



18世紀に建てられたグラン・テートル(大劇場)の外観と、広場を走るトラムの姿



人々が行き交う中心市街地の目抜き通り(写真はすべて筆者撮影)

者に無償で会場提供され、年間8回程度、展覧会が開かれてきた。利用者は日本から渡仏した芸術家、アキテヌ地方やボルドー在住の日本人、あるいは日本文化に関心のある仏人らである。写真展、墨絵展、書道展などが展開されてきた。2015年10月には津軽三味線の音楽会が実施された。

愛知県豊田市小原地区(2005年まで小原村)在住の加納恒(1951年生まれ)と登茂美(1959年生まれ)夫妻はこれまで3度の展覧会を開いてきた。恒は陶芸家、登茂美は和紙の工芸家である。同夫妻が2000年に初めてパリで2人展を行った際、会場を訪れた仏人男性から「ボルドーに面白い日本人がいる」と告げられた。メールで進藤と連絡を取り合ううち、展覧会開催を勧められた。20人の仲間を募り2009年10月、日本館の地下で「和紙 伝統と現在」展を開催した。次いで2012年11月にはアキテヌ日本人会主催の「日本文化 伝統と現在」に参加して、和紙、染織、書道などの工芸作家24人が出品した。同市の厚遇を得て、アキテヌ博物館および同市の展示空間(キリスト教会を展示場に改装)の公立施設2カ所で開催された^{※2}。日本館地下はワークショップの会場として活用した。その後、加納夫妻は2014年11月にも2人展を同館地下で開いている。

加納恒は2012年展を振り返って「和紙文化への関心が高かった。用意したチラシ

3000部はすべてなくなり、DMを急ぎ配付したほど。3000人以上は来場した」と語った。そして「同じ作品を展示しても、パリとボルドーでは関心の持たれ方に違いがあり、仏国の重層性を痛感した」と打ち明けた。ボルドーとパリは好みも異なる。一国の首都だけでなく、地方都市でも国際文化交流と取り組む必要性を感じさせた。

海外展は新たな刺激にもなったようだ。進藤は言う。「菊の花のデザインは日本では好まれる。しかし仏では墓場に持っていく花のイメージがあるので販売しにくい。日本からの輸出を考えるなら、海外事情をもっと知ってほしい」。同館にはそのような役割もある。

大学都市ボルドー

ボルドーを歩いていると若者の姿をよく見かける。仏あるいは欧州各国からの観光客に加えて、地元で大学や高校教育機関が数多く立地しているからだ。ボルドー大学だけで約6万人の学生がいて北アフリカや東南アジアなど世界から集まっているという。「学都」に日本の大学も注目し、筑波大学は2013年、わが国で初めてボルドー大学の中に「ボルドー・オフィス」を新設した。副責任者の松倉千昭(1971年生まれ)は筑波大学生命環境科学研究科・遺伝子実験センター教授で、トマト栽培など園芸学の研究者である。以前、9カ月間ボルドー大学で研修をした経験があったことから、両大学が

参画する共同学位プログラムの開設準備のために選ばれた。2015年4月に妻子を連れて赴任した。ボルドー大学はワインの本場らしく、園芸・醸造学に秀でているようだ。「治安がよくて住みやすいまち。書店で都市の文化レベルが分かるというが、中心市街地にある老舗の大型書店『モラ』は個人経営としては全仏で一番大きく、書籍も充実している」と松倉は話した。



筆者にとって初めての体験だった。路面電車(トラム)とまちづくり、歴史的建築物の保存と再生の試み、「グラン・テートル(大劇場)」の存在、などを知ることができた。パリを見ているだけでは仏文化への理解が不十分であると痛感した。(敬称略)

※1) アキテヌ地方は1154-1453年、英国領だったため、パリとは大いに異なる独特の歴史と風土を誇っている。
 ※2) 地域を代表するアキテヌ博物館、あるいは世界遺産の指定されている旧中心市街地の一角にある元教会を使ったのは、アソシエーション(非営利団体)であるアキテヌ日本人会が主催したからだという。「両会場とも人気で、数年先まで予約で埋まっている」(進藤)状態だが、ボルドー市の厚遇で借りることができた。ボルドー市と福岡市は2012年に姉妹都市締結30周年を迎えた。加納らのグループに福岡市出身者が1人加わっていたので厚遇を得られたと進藤は話していた。



まつもと・しげあき

早稲田大学教育学部卒、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程(後期課程)修了。博士(政策科学)。読売新聞記者、支局長を経て2006年4月から県立高知女子大学教授(現、高知県立大学)。2011年4月から現職。日本アートマネジメント学会会長、日本文化政策学会理事、NPO法人世界劇場会議名古屋理事。単著に『芸術創造拠点と自治体文化政策 京都芸術センターの試み』(2006)、『官民協働の文化政策 人材・資金・場』(2011)、『日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり』(2015)(いずれも水曜社)。

第32回 JIA 東海支部設計競技 1次審査結果

テーマ「首相官邸」

<学生の部>

● 1次審査通過作品

「平和の塔」
「縁の下のちからもち」
「首相官邸システム」

● 銅賞作品

「首相のカバン」
「70億の独裁国家」
「境界上の官邸」

<一般の部>

● 1次審査通過作品

「商店街がエントランスホールとなる首相官邸」
「起きて半畳、寝て一畳～20XX年、スラムの中の首相官邸」
「旗幟、彩る生活」
「虚実の消失点の狭間に棲む」

● 銅賞作品

「遊牧民化する首相官邸」
「Mega Throne」

桐谷万奈人・川端一輝（名城大学4年）
中村純子・三屋皓紀（大阪大学4年）
上奥璃奈（愛知淑徳大学3年）
前田真理（名城大学2年）
山田泰弘（愛知淑徳大学3年）
牧田 光（工学院大学4年）

山田 寛（フリーランス）
原 正彦（東洋大学人間環境デザイン学科技術員）
奥野智士・西田貫人（関西大学大学院M1）
坪田一平（大阪市立大学大学院M1）
山田 寛（フリーランス）
李 上（九州大学大学院D1）

■ 審査委員<○審査委員長・◎ゲスト審査員>

◎西沢大良（西沢大良建築設計事務所）、○南川祐輝（南川祐輝建築事務所）、松浦健治郎（三重大学助教）、
八木紀彰（八木紀彰建築設計事務所）、山田浩史（Hiro Planning）、吉村真基（D.I.G Architects）

1次審査を終えて

—「首相官邸」— 第32回 JIA 東海支部設計競技は、テーマが難しかったのか応募数が例年に比べ少なかった。今年はちょっと早めの懇親会かなと思っていたのですが、残念ながらそうはなりません。1次審査会では公開2次審査会に進む作品（金賞1点、銀賞2点）と銅賞3点を決めるのですが、考えてみればそんなに簡単に上位入賞者が決まるようなテーマではない。審査員の作品評価にもバラつきが見られ、審査員自身も審査の難しさを感じているように思われました。昨年度から審査の方法を二段階にし、社会性が高く時事性のある問題をテーマとして設定する方針としました。夏には議事堂前で多くの学生が問題を提議したり、また、ドローンが飛来したりと、今年の「首相官邸」は話題性抜群のテーマであると私自身は感じていたのですが、いま、建

築を学ぶ学生や若手の建築家はどの辺に興味を抱いているのでしょうか。設計競技特別委員会の中で少し検討する必要があることは間違いありません。ゲスト審査員の西沢先生が、このコンペに限らず多くのコンペで応募数の減少傾向が続いていると言われていました。考えると JIA を含めた建築会全体が曲がり角にあるのかもしれない。そんな中でも私自身は、来年度以降も骨太のテーマを設定し、学生や若手の建築家に問うていきたいと考えています。ただ、応募数が減少したこと自体は真摯に反省し、来年度以降の検討材料にしたいと思います。

矢田義典 | 矢田義典建築設計事務所・
設計競技特別委員会委員長



審査風景



第3回 JIA 東海住宅建築賞 2015

表彰式・大賞受賞記念講演会・シンポジウム

10月10日(土)、今年で3回目となるJIA東海住宅建築賞の表彰式・大賞受賞記念講演会・入賞者の作品説明・審査員によるシンポジウムが名古屋大学ESホールにて行われた。

今回は49作品の応募があり、6月20日に行われた1次公開審査の結果、7作品が2次現地審査に進んだ。7月23日～24日の2日間にわたった2次審査では、青木淳氏・堀部安嗣氏・長谷川豪氏の3氏による現地で行われ、大賞に『Nの住宅地の住宅』木村吉成+松本尚子/木村松本建築設計事務所が選ばれた(※1次公開審査・現地審査はARCHITECT 2015.8月号、10月号に詳細あり)。

大賞受賞記念講演会で木村氏は「特定の目的のためだけではない読み取りの自由さ、人の自由度を奪わず許容度の高い場をつくりたい」と語った。「整理」・「材料」・「構造」の3つをテーマに掲げ、私たちにできる批判性を思考し、実践することが建築であると表明。その中で「ひとつの場所に立ち続けるものに対して、瞬間的な驚きをつくることに興味はない」とのコメントが印象的だった。

シンポジウムでは、伊藤恭行氏の司会のもと、審査員の堀部氏、長谷川氏(審査員長の青木氏は欠席)より各受賞作を講評した。長谷川氏は、『Nの住宅地の住宅』を「形式的分類からひとつのストーリーに収束しないようバランスを取っている。かなり意識的に意味の

操作をしている」と評価。優秀賞の『安城の家』谷尻誠+吉田愛/SUPPOSE DESIGN OFFICE Co.,Ltdについては「すばらしい住宅だが、ひとつの方向に向かいすぎではないか。また内庭と外庭(道路)との関係にもう少し社会性・公共性があれば」とのコメントがあった。

続いて堀部氏より審査の様子について「1次審査は票が割れたが、2次審査では価値観が共有できた。作品のアウトプットが違う審査員だが、現地審査があったため価値観が共有できた」と現地審査の重要性を説き、自身の審査基準を「建物と住まい方の両方がかみ合うのかを重視して審査した。理解ではなく納得したものを選んだ」と語り、『Nの住宅地の住宅』と『安城の家』を高く評価。そして、住宅のクオリティを決めるのは、動線や寸法など目には見えない部分だと強調した。その中で『安城の家』については「元気なときはいいが、病で一人になりたいときにどう住宅が包み込んでくれるのかという疑問が残る」と述べ、2作品を「せつなさ」と「ハリウッドを見るような爽快感」と対比し聴衆の納得を誘った。

司会者の伊藤氏から投げかけられた『Nの住宅地の住宅』で見られた意図的なズレと偶然できたズレとの違いについての議論や、受賞者の多くが軒を扱っていたことから、それぞれの扱いについてのやり取りは充実したものとなった。予算を抑えるための合理的な寸

法が軒の高さの決め手となった『みんなの家づくり』服部氏。軒を1mまで下げることで屋根を壁的に扱って内外の境界をつくった『eaves house』川本氏。屋根とホワイトボックスとの関係から生まれた多様な空間での、施主の自由な住まい方に評価が集まった『福田邸』米澤氏。ホワイトボックスを超えた展開の可能性が議論となった『大門の母屋と新屋』栗原氏。中庭と内部空間とのつながり、軒の本来の役割の議論となった『栄町の光溜』佐々木氏。詳しくは今年度も刊行される予定の東海住宅建築賞記録集の中に編集されるとのこと。楽しみにしていただきたい。

最後に出席された受賞者の施主も、審査員に促されて発言。『Nの住宅地の住宅』の施主からは、「建築家が建てる家のようなキラキラしたものではなく、自分のことをよく知る設計者による日常的な家であることがありがたい」と設計者への感謝を語られた。『安城の家』の施主は、階段が少し使いづらいのではないかと審査員の質問にも「設計の意図が分かって一緒にのっていったので許容できている」と施主も共犯者になってのものづくりに審査員も納得。良き施主から良い建築が生まれること、設計者ではなく施主が主役だとあらためて感じる機会となった。

森本雅史 | 森本建築事務所



審査員と受賞者の記念撮影



シンポジウムの様子
(左から伊藤恭行氏、堀部安嗣氏、長谷川豪氏)



木村氏によるスライドを使った講演

9月26日開催

JIA 東海支部 会員集会・建築家講習会

「会員規定改正と建築家資格制度規則等改正」について

支部会員集会・講習会に参加して

支部会員の要望により「会員規定改正と建築家資格制度規則等改正」についての会員集会が9月26日、JIA 本部資格制度委員の植野収氏をお招きしてナディアパークBCビルにて開催されました。参加者は60余名ほどでしたが、私個人としては説明を聞く機会を得て良かったかな……との印象でした。

1990年にJIAが建築家資格、法制度の調査・研究を開始して25年余、紆余曲折を経て資格制度は新たな展開を見せているところです。

6月25日、JIA 通常総会において会員規定が改正され、正会員は全員登録委員会になることが決まりました。また7月28日には建築家資格制度規則、同細則、CPD規則、同細則の改正も理事会承認されました。会員規定の改正では「正会員は別に定める建築家資格制度規則によって、建築家認定評議会による登録建築家資格の認定を受け、建築家登録認定機関に登録するものとする」となりました。即ち、JIA 会員は全員登録建築家としての資格認定を受けることとなったのです。JIA 正会員+登録建築家=JIA アーキテクト=UIA 基準の建築家の証明とも考えられるわけです。わが国の建築家も海外で数多くの設計を手掛けていますが、職能団体としてUIA 基準のグローバルな建築家と同等であることを証明するためにも、この制度の信頼性を確保する必要があります。

正直、今回の説明を聞くまでは建築家資格制度の改正にさほど興味もなく、ましてやJIA 正会員+登録建築家=JIA アーキテクト=UIA 基準の建築家の証明とは考えてもいませんでしたので、UIA 基準が「Expertise」「Autonomy」「Commitment」「Accountability」など4つの「プロフェッショナリズムの原則」などから成り立っていることなど、あらためて再認識させられました。JIA 会員に足りないといわれている「Expertise」の部分を登録建築家資格が補い、登録建築家に足りないそのほか3つの「プロフェッショナリズム」をJIA 会員が補うという構図からその両方を満足させることが必要だとのこと……。また、職能的業務サービスの交易が急速に増加した世界においては、建築家の業務は国際的な職能規範も必要不可欠であるといわれています。

登録建築家の認定基準についてはこれから必須単位を減らす方向で話が進んでいるようですし（現行の108/3年単位が36/3年単位に減になるのは非常に助かります）、会費の見直し、登録更新費用の軽減（登録更新費用が2/3に軽減され18,000円が12,000円になるもようです）、登録更新の容易性の確保なども含めて見直しも図られるようで、とりあえずは「JIA 正会員は全員が登録建築家に」というスローガンを掲げ、大澤職能・資格制度委員会委員長の声掛けのもと、新しいCPD制度がスタートしようとしています。

JIA 会員全員がUIA 基準認定の建築家として世界に認められ、グローバルな活動ができるようになるためには会員全員の協力が必要でしょう……。

ただ、会員の考えは必ずしもJIA 会員=UIA 基準認定建築家で一致ではなく不要といわれる声も聞かれます。長い時間をかけて一応の結論をみた新しいCPD制度を成功させるか否かはJIA 会員全員の責務かと考えます。

会員集会と合わせて開催されたのが名古屋市立大学芸術工学部教授の伊藤恭行氏をお招きしての講習会。テーマは「プロポーザルを通して考えてきたこと」。アトリエ：CA n (C + Anagoya)での活動を、スライドを使いながら分かりやすく説明され、伊藤氏のプロポーザルに対する姿勢を面白く聞くことができました。最近では光を如何に取り込むかを主題とされている様で、段差を利用したシャープな面と光の構成が重なり合う時空は、他の建築家とはまた違った「日本らしい新しさ」を感じられたのは非常に興味深いものでした。

応募した設計案では数多くのストライクをとられている印象でしたが、ご本人いわく「打率1割が現状ですよ」と仰っていました。やはり皆さんご苦労されているようで、現在のプロポーザルのあり様にはこれから考えさせられる点が多々ありそうです。作品もそうですが全体にさわやかな印象の講習会でしたので、長い時間の割に心地よい疲労感でした。

植野さん、伊藤さん、長い時間お疲れ様でした。

原 眞佐実 | 原建築設計事務所



「JIA 静岡 ものづくりフェア」開催

10月15日～18日まで、JIA静岡の活動を広く一般の方にも知ってもらうため、3つのイベントを「JIA静岡 ものづくりフェア」としてまとめて開催した。今回は静岡県東部での開催となった。

○建築家作品展示 (10月15日～18日)

静岡地域会の会員を中心とした作品展示(パネル、模型など)のほかに、日本建築専門学校との協力のもと、伝統建築の精巧な模型、仕口・継手のモックアップなどの展示を行った。

○建築ウォッチング (10月16日)

スルガ銀行のプライベート施設である「スルガ銀行キャンパスカレッジ」見学を目玉として、その他、クレマチスの丘の美術館・庭園を巡る見学会となった。

○三島のまち歩き (10月17日)

天候にも恵まれ、多数の一般参加もあり、講師を囲んでの懇親会まで大盛況だった。詳細は中心になって企画運営をしていただいた高島ゆかりさんにレポートいただく。



石橋 剛 | 石橋修建築設計室

三島のまち歩きレポート「源兵衛川」

ここ数年、三島市には多くの旅行者が訪れている。まち中を流れる清流「源兵衛川」、伊豆のパワースポットとして昔



源兵衛川で遊ぶ子どもたち

から愛されている「三嶋大社」、レトロでヒューマンスケールな商店街に残る「看板建築」。これらの3つの観点から、三島のまちを見直した講演会と見学会が10月17日に開かれた。今回はその中のひとつ「源兵衛川」についてレポートする。

源兵衛川の整備と市民活動は全国的にも知られた秀逸な景観整備である。今回は基礎となる環境整備の設計をしたTeamZooアトリエ鯨の岡村晶義氏を招き、知られていない設計過程、表面には見えづらい環境調和の設計について分かりやすく講演してくれた。設計を始める前の源兵衛川は、地下水の汲み上げ、家庭雑排水の流入、ゴミの放置などによりドブ川化していた。当初の設計の依頼は、まち中を流れる源兵衛川の上流ではなく、下流の農業用貯水池の整備であった。しかし岡村氏は「最後の池だけを整備しても意義がない。まずは源流となる場所からの整備が必要だ」と考え、特に源兵衛川のポテンシャルの高さを設計者として感じ取り、設計者独自で川の源流からの整備のプレゼンテーションを役所の担当者に提出した。当時、静岡県の担当であり、現在も三島の市民環境活動を積極的に行っているグラウンドワーク三島の渡邊豊博氏が提出案に共感してくれ、農林水産省の補助事業にできるように積極的に働きかけてくれた。はじめに



現地で岡村氏にお話を聞く

かかわった人達のそれぞれの立場での勇気と提案力がなければ、現在の三島市民の自慢の風景は存在しなかったのだとあらためて気付かされた。

源兵衛川の設計で大きな特徴は、川の中を人が歩けるということ。通常であれば川の中に何もつくることはできない。当時は下水道が完備されておらず、住宅の雑排水をパッシブな建築手法で浄化するために富士山の火山灰のスコリアを住宅側の川岸に敷きつめた。その“排水浄化施設の管理用道路”として「遊歩道」ができ、この路の構造もまた川の浄化を担うよう設計されている。下水道が完備された現在も、川に近づけるこの「遊歩道」は、子供たちが安心して水遊びができ、市民の散歩道となり、三島市の市民活動・環境活動の大きな起点となり、「川」を通して「まち」へ「人」へとさまざまな拡がりを生み出している。

岡村氏は設計の期間中も地域の生態系に詳しい地元の高校や大学の先生達に環境について相談し協力を仰ぎ、その地域にあった設計をしていた。そこから生み出された設計は、「つくりすぎないデザイン」であり、高度なデザインであると思う。



高島ゆかり |
一級建築士事務所 アトリエ結



講演会の様子

「天使の森」/ 不燃・防腐木材工場見学会 + 環境セミナー「環境と産業を考える」

10月4日(日)快晴の中、岡崎市の東端に位置する山中に向けて出発しました。「特定NPO法人アースワーカーエナジー」の小原淳理理事長に車中解説をしていただいていると、みるみるうちに住宅は点在し、周りは一面緑に囲われました。途中、廃校となった小学校が新たに住民の集まりの場となって、みんなで手入れをしている姿にも立会えました。バスを降りて、歩くこと30分。見渡すかぎりの植林の中、あらためてじっくり山と向かい合ういい機会でした。「森」といえど「山頂」、やっとの思いで到着した前面には街を見下ろし、その向こうには海が望めました。

標高500m、13.5ヘクタールの山林の林相転換。スギやヒノキといった人工林から落葉広葉樹の自然林に転換しようとする活動の場です。100年プロジェクトとして森林を再生させ、里山の暮らし、地域循環型産業について考える場所を「天使の森」と名付けました。その景色から、「山→街→海」という構図を再認識することができ、人と自然が調和した生態系の重要さを感じました。小学生達が苗ポットをつくり、その2年後に現地に植樹したり、都会の若者に現地の整備作業に参加してもらったりなど、活動の目的や何が大事かを感じてもらっているそうです。現在は山頂付近のみの活動ではありますが、順に展開させていく予定です。森林の多くは放置されて荒廃

し、それが生態系の乱れを招いています。水源である森を潤すことが私たちの環境、産業、生活を潤すことにつながるはずで

す。それと同時に伐採される人工林を有効活用した地域循環型産業を考えます。瘦せているとはいえ大量の木々をあらためて目の前にして、木々の使われ方と限界集落の可能性を誰もが考える機会となったのではないのでしょうか？ 流通が問題で価格競争力で劣ってしまう構図が現況だそうです。金額と太さに劣る外材に対して、現地から採れる木材に付加価値をつけて展開していく。この点が午後から行なわれた工場見学会へとつながっていきます。訪れた小原木材(株)では、加圧注入システムを用いて不燃や防腐木材を生産していました。今後、地球温暖化や大規模木造建築物が目立って多面で実践されていく中で、従来とは違う使われ方も広がり、さらなる価値が見出されていくのではないかと期待しました。膨大な設備と、その姿勢と意気込みには驚嘆させられましたが、「変わる。変えていく。」というのは、時間と資金がかかるのは当然ですが、「天使の森」の見学を通して、なにより「理念・意思の強さ」が重要であると感じました。

夕方からは環境セミナーとして、名古屋大学農学部・山崎真理子先生を講師に招いて、国内外の木の使われ方と「都市の木質

化」を主として講演されました。午前中からの疲れが蓄積されたなか、山崎先生の軽快な歯切れのいい話に引き込まれました。国土の約67%が森林である日本でその資源をいかに利用していくのか。午前の森の現実を知り、午後の高付加価値化を目指した一例を学んではきましたが、抜本的な具体的な解決がない現実を悲しくも理解する機会でありました。建築業界が「木質化」を唱えても大きな効力は生まれないかもしれない。本来、在来木造住宅が主流であったり、「あたたかさ・やわらかさ」といった意匠性や、「強さと軽さ」という構造上のメリットを生かしたりといった理由で木を利用していますが、これからは単純に「木がいい」というだけでなく、川下であるわれわれが川上の人々の労力と環境の大切さを理解しながら木を使っていくことが、まずは「まちの木質化」につながり、「都市の木質化」へと広がっていくのではないのでしょうか。

具体的な結果や答えは出ませんが、充実した一日を通して直面している現実問題を知り、参加者の皆さまが熟考できる企画であったと捉えています。今後機会があれば、まずは身近な「まちの木質化」を考えていきたいと思えます。

西村和哉 |
h+de-sign/architect



「天使の森」にて



不燃・防腐木材工場見学の様子



山崎先生(名大農学部)を講師に講演会(環境セミナー)

とよはし都市型アートイベント sebone2015 「段ボールカード造形教室」



黒野 有一郎 | 一級建築士事務所 建築クロノ

9月5日(土)～6日(日)の週末、豊橋(愛知)のまちなかで開催された『とよはし都市型アートイベント sebone (セボネ) 2015』において「段ボールカード」を使った『段ボール造形教室』が実施されました。東三河エリアでは、はじめての開催となります。「sebone (セボネ)」という奇妙なネーミングについては、豊橋のまちなかにある「水上ビル」という用水路の上に800メートルに渡って連なる商店街の建築が、“まちの背骨”のように見える、とのことから名付けられました。「水上ビル」の空き店舗や、駅前の空きビルのスペース、隣接する公園・広場をつかって、アート作品の展示やワークショップを中心に、音楽ライブ、スタンプラリーなどを行う商店街活性化イベントです。2004年に始まった本イベントも、今年2015年で12回目の開催となりました。

さて、今回の会場となったのは、「水上ビル」のひとつ、「大豊ビル=大豊商店街」の一面の空き店舗、広さ11帖ほどのスペースです。目の前がイベント本部やライブ会場となる公園ということで、もっとも人の往来の多い、条件の良い場所でした。店内は、壁、天井ともコンクリートむき出しの状態であったので、危険を避けるために商店街から借りた段ボール箱を周囲に配し、床には畳屋さんから畳(9畳分)を借りて敷き込みました。主に子ども向けのワークショップでは、“靴を脱がせること”が重要だと思えます。子どもたちは靴を脱いで上がることで、リラックスし、安心して長い時間滞留することになります。「段ボールカード」の損傷を防ぐことにもつながります。いかに落ち着く場所が提供できるか、という意味では、設計に近い。これまでの長者町廻りす祭りや白鳳小学校でのワークショップに比べて、“こぶり”ながらも“濃密”で“落ち着く”創作空間になったのではないかと思います。また、商店街にとっては、この機会に空き店舗空間を魅力的に見せて、

知ってもらって、店舗が埋まることが重要なので、その一助になることはできたかと思えます。

当日は、混雑状況に波があったものの、2日間で延べ100名程度の一般参加があり、「段ボールカード」造形を楽しんでいただきました。子どものみならず大人(親)の参加もあり、小空間が作品と人でぎゅうぎゅう詰めの状態となることもあり、ほぼ終日滞在した子もいて、付き添いの母親の根気にも感服しましたが、「将来の建築家」に、「その時はJIAに入ってね」と皆で会員勧誘も怠りなく行いました(笑)。「段ボールカード」造形では、完成形・完成時点が見えにくいため、ポラロイドなどによる記念撮影や、定点撮影などによって記録をとり、イベント内でプレゼンテーションできるとよいと思いましたが、今回は準備が整わず、実現できませんでした。今後の課題です。これまで行われた他会場の紹介パネルなどの展示があると、より企画の意味が明確にプレゼンできると思いました。

2日目午後からは、あいにくの雨天になりました。“雨に弱い”ダンボールカードですが、商店街のアーケードのおかげで、問題なくイベントを終了しました。「水上ビル」を含む豊橋駅前界隈は、来年開催の「あいちトリエンナーレ2016」のサテライト会場となることが決まっており、「sebone (セボネ)」との連携もしていくため、来年度のかかわり方はより意味のあるものになっていくと考えます。

「水上ビル」や「sebone (セボネ)」について、また、それらの成り立ちについては、本紙2014年2月号～2015年10月号(全6回/隔月・偶数月)の連載記事「建築家は、リージョンをもつ。」の中で、詳しく書かせていただきましたので、ご紹介しておきます。



熱心に取り組む子ども(未来の建築家)たち
(撮影・鈴木利明)



11畳ほどの「段ボール造形教室」のブース。
量でひと工夫



ブース前にて。右・筆者

9月の金沢大会を挟み久々の理事会。報告事項など多岐

本部理事 鈴木 利明



第230回理事会は2015年10月20日(火)13時30分～17時10分、建築家会館1階大ホールにて集合方式で開催された。出席者は会長以下、理事20名、監事2名、事務局2名、オブザーバー1名(欠席理事4名)。

【審議事項】

1.入退会承認の件(事務局)

1)新規入会希望:正会員4名、準会員:専門2名、ジュニア1名、学生13名、協力会員:個人1名、法人3件、種別変更:シニア1名、退会希望:正会員3名 以上、承認。

2)正会員数4,019名(10月20日現在)(前月末の全会員合計5,472名)

2.委員会委員長委嘱承認の件(筒井信也専務理事)

①職能・資格制度委員会の委員長委嘱承認

委員長就任 安達治雄(関東甲信越)、大澤秀雄前委員長は委員として留任

[報告]業務改善委員会退任委員 林 明宏(関東甲信越)

3.建築家資格制度規則・細則改正の件(吉田文雄職能・資格制度委員)

1)規則第27条については、「…第1項にもとる行為」を「…第1項に定める責務にもとる行為」に加筆して趣旨補足。席上で「もとる」の語句が条文にふさわしいか若干討議の後、原文通りで一括承認。

2)細則第10条については、第3項の条文中「本細則第14条…」を「本細則第12条…」に単純に誤植訂正。

3)関連して吉田委員より、「J5」(5団体)での資格制度の行政働きかけについて各支部・各地域会でも協力アピール。併せて上遠野理事より、北海道と札幌市への実績紹介。「6会」で適判問題への共同提起が契機

【報告事項】

1.事業系活動体の位置づけについて(森副会長・角銅総務委員)

1)外部からJIAが委託を受ける案件の位置づけの必要性について提起し課題等を整理。全国会議体制への組み込み案を組織図に例記(過去に、環境行動ラボやバルコリーヌ南大沢問題の事例あり)。

2)この全国的な事業系活動体(仮称・タスクフォース)についてJIAの委員会規程の<改正素案>(検討案)提示あり(仮称名は不適?)。

3)意見交換の中で、組織の肥大化・私権化への懸念や公益性・会計への難点が示された(→事業管理委員会にかける方策もあるか)。

2.苦情対応に係る職責委員会付託についての報告:当面は部外秘(福富啓爾関東甲信越支部苦情対応委員長・角銅九州支部長)

1)関東の案件は善隣倫理(JIA建築家憲章と倫理規定)と内部環境賞授与済の2点で問題視。まず職責委員会にかけ、必要なら懲罰決定。

2)九州支部からは半地下部の日常的水害苦情1件が報告された。

3.国際交流委員会報告(岩村国際交流委員長)

1)特にARCASIAへの注力の重要性について報告。社会的責任憲章草案(岩村委員長による英文和訳版)の紹介と2018年の大会

(ACA18)日本誘致を強くアピール。

2)芦原会長より、現在19カ国参加でアジアが最前線となり土着の環境づくりを発信し、UIA基軸からの転換発想も必要との実感披露。連理事から、アジア各国との相互認証システムの必要性の提起あり。国際交流基金のストックの使途も視野に入れるべきとの意見も出た。

3)岩村委員長より別添資料で「2015年度海外建築活動報告集(一財)国際建築活動支援フォーラム編」が紹介され、注目動向についてコメント。

4.「JIA建築家大会2015金沢」結果について報告(近江北陸支部長) 総勢360人総動員で「手づくり」、まさに「みんな力」発揮。多数参加に感謝表明。登録数710名、レセプション出席443名、フォーラムの参加者合計1000名超(内3割は一般参加者)。

5.2016年度 役員候補者選挙結果について報告(筒井専務理事)

9月29日付選管委員長報告(無投票選出)を再周知。(別報参照)支部関連分として、六鹿正治会長候補・車戸愼夫東海支部長候補ほか。

6.民間(旧四会)連合協定工事契約約款「工事約款」改正について(森副会長)前回改正後4年越して改正議論し今年8月に新改正案。

7.フェロー会員推薦について(筒井専務理事・原田事務局長)

フェロー会員推薦基準として、支部会員数の年1%程度の推薦受付し最終的には5%程度、毎年12月末まで受付・2月担当委員会審議・3月理事会承認を目指す。

8.コンサルティング会社変更について(筒井専務理事)

従前アドバイザーの分社化で別名事務所に変更するが実体は踏襲。

9.活動及び業務執行状況報告(筒井専務理事)

①公共建築発注方式の多様化への対応(公共建築設計懇談会・五会研究会等)報告

DB/ECIの動向を森副会長より補足。例えば、公共建築では設計施工分離が前提だが、特殊ケースはコンソーシアム型もかねて3会です承。

②新国立競技場見直しへの対応について

9月15日付の芦原会長名の意見書とその各紙報道について再周知。

③第1四半期公益事業比率報告

一括表にて報告。本部・支部・地域会合計公益事業比率49.9%、ほか。

④後援名義承認の報告(会長専決事項)

一括リスト(8月分と9月分)にて報告。一部案件についてその後肖像権トラブルにより一旦取下げ→後援名義了承文書に但し書き追記。

10.その他

横浜のマンション杭工事改ざん問題について提起あり意見交換。DB(⇔設監分離)の話題に切り込むべき / 人を信頼して頼むことの本質(⇔「建築基本法」)。

東海支部役員会報告

分譲マンションの杭不正工事が、連日TVを賑わしている。さまざまな建築・マンション専門家と称するコメンテーターが、下請制度の経済第一主義や元請への隷属性など、いつもながらの「旧態然とした建設業界原因説」しか語らない。

元請けの三井住友建設には当然担当した監理建築士、構造建築士が関与し、設計・監理しているはず。設計・施工故のチェック機能の問題点や、第三者機関的な役目を果たす、建設業者から自立した建築家の職能の重要性などが語られないことは不思議でならない。そして、われわれも建築家の職能をもう少し一般市民に分かりやすく広報する必要があるかもしれないと思う日々です。

車戸慎夫 | 車戸建築事務所



日 時：2015年10月2日

場 所：昭和ビル5回 JIA 東海支部会議室

出席者：支部長、本部理事2名、幹事11名、監査1名、
オブザーバー7名、欠席者1名

1. 支部長挨拶

9月の金沢で開催された全国大会、ご出席ありがとうございました。楽しく有意義な懇談・親睦ができました。

2. 報告事項

支部報告

①第4回東海支部CPD評議会(9/4)(塚本)

・プロパイダーについて

申請のあった一件については認定したが、プログラムが取り下げられた。

・プログラムについて

申請のあった22件について14件を認定。8件は修正の上、認定。

・JIAは、公益財団法人技術教育建築普及センターに合わせる。

②「JIA25年登録」委員会(9/14)(谷村)

・支部では申請を受けた2件につき書類審査を4名の委員で行い、所見・所感を付けて本部に登録を推薦。

③JIA東海支部大会2015実行委員会(9/25)(谷村)

谷村実行委員長より早めかつ多くの会員の登録要請あり。

④2015年度第1回東海支部選挙管理委員会(9/30)(久保田)

・福田一豊(愛)、大瀧繁巳(岐)、森本昭博(三)、三輪豊(静)、藤巻志伸(愛)の5名が選出され委員の互選により福田一豊委員を委員長に選任する。

・選挙規定等を確認。

・立候補届出締め切りを11月19日17:30事務局着まで有効、又投票期日は12月21日事務局着分まで有効とする。

・各地域会に於いて、会長・副会長が支部幹事をかねる規約となっているはずで、会長・副会長が地域会で選任される故に、幹事は選挙にならないこととなります。

⑤JIA東海住宅建築賞2015(9/29)(吉元)

10月10日の表彰式・講演会・シンポジウムについて広報チラシを基に報告あり。

⑥第32回JIA東海支部設計競技(9/30)(矢田)

支部大会2日目(11/14)に支部事業として行う。名古屋市立大学での一次審査(10/24)には会員の多くの参加を是非に。

各地域会からの報告

静岡、愛知、岐阜、三重、各地域会からの報告あり。

3. 議事

(1) 審議事項

①事業報告支部資格制度委員会「会員集会・支部講習会(9/26)」(藤巻)

・参加人数

東海支部会員集会出席者37名、東海支部講習会出席者33名

・収支決算書通り承認

②事業計画「伊東豊雄講演会+ぎふメディアコスモス見学会(11/27)」(久保田)承認。

・会員用と一般用のポスターを区別して配布した。懇親会は、最大の70名を目標に集めます。

・ちらし一部修正をする。

③入会申込法人協力会員「(株)ユニソン」(見寺)承認。

④支部選挙管理委員会委員選出について(久保田)

5名の選挙管理委員がメール審議にて承認されました。

(2) 協議事項

①国土交通省中部地方整備局「災害対策委員会名簿開示等」について(久保田)

・国土交通省中部地方整備局の担当者に詳細を確認し、支部での対応を検討する。

②三重地域会持ち出し役員会について(久保田)

・今回は、地域会の活動が重なっているので行わない。

③「東海支部運営規則」について(見寺)

・慶弔規則について、総務委員会で修正の上再協議する。

(3) その他

①岐阜地域会持ち出し役員会について(11/27)(久保田)

・13:30~15:30分までぎふメディアコスモスで開催。

・13:00に岐阜地域会は集合の上、準備・協力

(4) 監査所見

[中村監査]

国土交通省中部地方整備局からの委員会名簿開示の要請については、東海支部で主旨・内容等をよく検討し、東海支部経由で国土交通省中部地方整備局との協議を進めてほしい。

登録有形文化財

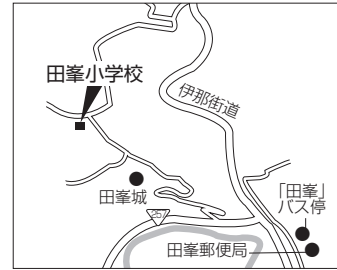
設楽町立田峯小学校普通教室棟



田峯小学校南面全景



田峯小学校玄関回り (脇に二宮金次郎像)



■紹介者コメント

「田峯」は私には耳懐かしい奥三河の要衝で、旧・豊橋鉄道田口線から段戸山に登る拠点駅。今やバス便しかないが、車主導なら田峰観音・田峯城はじめ諸所の史跡や自然名勝巡りも楽しめる山間の由緒地である。

設楽町立田峯小学校は、現地校舍新築時の昭和2(1927)年にアメリカから贈られた青い目の人形「グレース」の里帰りを契機に、学校と地区一体で活発な日米文化交流を20余年も持続・発展させていることでも名高い。また近年、桁行65mに及ぶ平屋建て・片廊下式の現役使用の木造校舎の原形を大切に一大改修がなされ、改修後の姿で国の登録有形文化財に登録された。

昭和2年の竣工以来、地域に根差し多くの卒業生を輩出してきたが、山裾の緑に佇む伸びやかな赤い屋根と黒い壁の平屋建て校舎は山村コミュニティの原風景ともなっている。近年の一大改修でもその原風景の末永い継承に意が尽くされ、新たに耐震・耐久化を施すさまざまな保存改修が実践された。「変わらぬ姿」で残すための耐震補強要素の内在化、一見判らない屋根構法の軽量耐久化(既設塩焼瓦→日本瓦形状で同色系の塗装鋼板葺き)や基礎の強化、既設資材の再利用や思い出空間の再編など、更新された姿での登録は意義深い。

今年度児童数10名・複式3学級の小さな地域活動拠点はこうして新たな活力を重ねて、今後ま

すます地域共有の歴史の舞台を提供し続ける。古い現役木造校舎の玄関前での卒業写真は年々脈々と廊下に掲げられるという。

所在地：愛知県北設楽郡設楽町田峯字下畑9番地
所有者：設楽町
建設年：昭和2(1927)年、平成23(2011)年改修
構造・規模：木造平屋建て、鋼板葺き(改修後)
建築面積：689㎡(他棟含み合計延べ1,084㎡)
設計者(改修)：(株)黒川建築事務所
施工者(改修)：(株)太平建設
問合せ先：田峯小学校 0536-64-5004
アクセス：豊橋鉄道バス・田口新城線「田峯」バス停
(より徒歩約30分)

文化財指定等：登録有形文化財
23-0401
登録年 平成26(2014)年
鈴木利明 | 一級建築士事務所
デザイン スズキ



データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

石垣に惹かれて



名古屋城



白壁か茂免



四間道



荒子(旧集落)



■発掘者コメント

9月、JIA大会で金沢へ。郭街、武家町、寺町のまち並みが魅力だが、その情景をつくる「石垣」が好きで、金沢を訪れる楽しみにしている。石垣は傾斜地のあるまち、城下町など日本のどこにもあり、よく見ると、それぞれの地域の特徴を持っていることが分かる。

名古屋で筆頭に挙がるのは名古屋城。徳川家康の命で、尾張出身の外様大名を中心に築かれたことはよく知られている通り。傾斜地の少ない名古屋でも、あちこちに石垣を見ることができる。市内西部沖積平野の宅地地盤かさ上げ、丘陵地の地盤調整、堀垣の基礎部分の石積みなどである。尾張の特徴の一つは、大きめの玉石を亀の甲状に隙無く積み上げる亀甲積み。木曾三川

沿いに多く、名古屋市内にも見ることができる。

旧武家屋敷町の白壁界限はほとんど平坦な地形だが、わずかに東下がり傾斜がある。そのためか微地形の調整や堀垣の基礎に低い玉石積みの石垣が各所で使われている。ここに亀甲積みがある。和洋折衷の代表例、旧中井紙店(現・料亭か茂免)玄関右手の堀の腰を注目されたい。城下町西橋、堀川沿いの四間道付近は最近、町家を活用した店舗が増え、人気スポットになっている。四間道東の白漆喰の蔵は尾張名所図会に見る幕末の風景をよく留めている。この石積みは見ると地盤差調整が目的と分かるが、それぞれのお店ごとに積み方が異なり、遊び心がかがえて楽しい。時代的には城下町築造期とは思えないが、少なくとも幕末には形成されていたと

見なされる。

かつての農村集落にあたる城下町外縁部にも古い石垣を見ることができる。御器所、呼続、鳴海、星崎、高針、守山など丘陵傾斜地の旧集落を歩くと、そこかしこに石垣がある。市内北西部には地盤かさ上げの石積みがよく見られる。典型は蔵を石積みでかさ上げた水屋。緑と一体の集落景観が好きで荒子をよく歩くが、ここにも微地形調整の石積みが多い。時間があれば素材や積み方など地区ごとの特徴を掘り下げてみたいと思う。

築年：不明、江戸期から続くと推定



尾関利勝 | 地域計画建築研究所

環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組みについて

「環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組みについて」

10月9日、アパホテル名古屋錦にて、法人協会主催研修会を開催しました。法人協会から日頃お世話になっているJIA会員の皆さまへの認知活動の一環として、各企業の取り組みを紹介しています。今後も研修会を開催しますので、皆さまのご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。(参加者数：会員29名、法人協会会員14名)

酒井良和 |
株式会社LIXIL 中部支社



①ビニールクロスに替わるエコクロス 株式会社イケダコーポレーション

講師：射場 吉次氏

F☆☆☆☆の建材を採用しても、住宅の気密性・断熱性、室内の空気環境によってシックハウスになる可能性がある。問題解決の一つの答えとして、自然素材のドイツ伝統壁紙のお話を伺った。この壁紙は住む人の安心・安全はもちろん、次の世代も住み継ぐことができる素材で、そのメンテナンス性から廃棄物もほとんど出ない。この壁紙が誕生した経緯と、今なお多く採用されている理由をドイツの歴史背景や吸湿性など具体的な数値を交えて説明いただいた。



研修会の様子

②建築におけるガラスコーティングの活用 グラストップ(株)

講師：天満 久義氏

さまざまな素材を傷や汚れから保護するためのガラスコーティング剤。従来の課題を克服した塗膜型(以下B系)をはじめ、外部の木材専用(以下W系)やアルミ建材専用(以下M系)など最新のガラスコーティングの説明とその活用例を紹介いただいた。B系は固さ9H以上、曲げても割れない、静電気を帯びないなどの性能を持ち、フローリングをはじめ、クロス、塗り壁、塗床などあらゆる場所に塗布が可能となる。W系は外部木材用としては、現在の主流である一般的な有機塗料に比べて色が長持ちし、コケやカビが発育しにくい。M系は、花咲きや焼けの目立つアルミ建材を修復し保護する。一などなど、ガラスコーティング剤が建材の長寿命化、美観復活・維持、環境負荷の軽減など建、築業界にもたらす影響をご紹介いただいた。

③ガラス開口部への安全・省エネ対策のご提案 株式会社サンゲツ

講師：網代 誠氏

建築用ガラスフィルムは、ガラスの本来の特長に加え、「安全性」「快適性」「意匠性」を高めることが可能になる。機能を大きく分けると①ガラス飛散防止②日射調整③紫外線カット④プライバシー保護⑤デザイン —の5つ。ガラスは衝突や建物の変形により割れる性質があるが、ガラスフィルムにより地震や竜巻などの自然災害や衝突・2次災害を防ぐ効果があるとして注目されている。また、省エネルギー対策の一環として日射遮蔽性能、断熱性能を付与した飛散防止フィルムの紹介いただいた。日射遮蔽(遮熱)フィルムに暖房効率も向上させる機能を付与させたことにより、室内の明るさを確保する可視光線透過率は73%と高いレベルを維持しつつ、夏場・冬場ともに年間を通して空調電力削減効果を実現させることを紹介いただいた。

地域会だより

<東海支部>

- 11/13 東海支部大会「都市の多生」
- 11/14 第32回JIA東海支部設計競技2次公開審査・表彰式・記念講演会
- 11/27 「台中国立歌劇院～10年間の軌跡」ぎふメディアコスモス見学会・講演会・懇親会

<静岡>

- 10/15～18 2015年度「JIA静岡ものづくりフェア」開催(※詳細はP9に掲載)
市民建築ウォッチング(10/16)、三島のまち歩き(10/17)
- 10/20 静岡県応急危険度判定事務局会議に出席
- 11/5 11月定例役員会の開催
- 11/20 (一社)静岡県設備設計協会創立50周年記念行事に出席
- 12/10 JIA塾の開催、12月定例役員会(拡大)の開催、忘年会

<愛知>

- 10/24 住宅研究会 見学会in兵庫
- 11/3 住宅研究会セミナー「これからの時代、土の建築ができること」

11/14～15 事業委員会 長者町えびす祭り

11/20 ボーリング大会

<岐阜>

- 10/13 JIA岐阜地域会 第4回 役員会 開催
- 10/17 第35回建築文化講演会(公社)岐阜県建築士会主催
- 11月予定 平成27年度JIA岐阜地域会 第5回 役員会 開催
場所:ハートスクエアG 小研修室
- 11/28 社会貢献 CPD 「かみコップタワーをつくらう!」
- 1/15 新年会
- 2/4, 10 実務セミナー 古澤弁護士を招いて

<三重>

- 11/6 第5回例会、会員研修会4
- 12/11 第6回役員会、第6回例会(持出しTOTO名古屋S/R)、会員研修会5、忘年会
- 1/15 第7回例会、会員研修会6(三重県総合文化センター)

弔りどころ、大切な葬儀

葬儀のこと、お応えします。

一柳の葬儀は、各種・価格を段階的に用意いたし、ご希望される予算に合わせてお見積りいたします。宗教・宗派、葬儀規模の大小にかかわらず、全ての葬儀に丁寧にお応えしています。

いちやなぎ斎場は、365日・24時間、いつでも病院・施設等から直接入れます。

いちやなぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号
TEL (052) 745-1212

いちやなぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号
TEL (052) 899-0111

◆葬儀のお申し込み◆お問い合わせ◆事前相談は

TEL.052-251-9296

365日・24時間 一柳のスタッフが対応いたします!

創業138年の伝統と実績



株式会社

一柳葬具總本店

<http://www.ichianagi-sogou.co.jp>

イチヤナギ倶楽部

- 入会金1万円のみで掛金不要、基本価格の2割引と交通事故傷害保険の特典取得
- 相続、遺言、後見制度など相談先の紹介が受けられます



編集後記

●東京オリンピックのメインスタジアムとエンブレムが白紙撤回されました。問題点はいろいろと指摘されていますが、ここで考えなければならないのは、建築家、デザイナーと、国民との間の認識のギャップの大きさです。ネットによって情報が瞬時に共有され、発信することが可能となった時代において、建築家、デザイナーが今までの慣行、業界内の常識によって行動することが通じなくなっていると思います。説明責任を果たすこと、コミュニケーションを取ることができなければ、オリンピックスタジアムやエンブレムの二の舞になる可能性があるということです。この先、コミュニケーションの重要性は増すばかりでしょう。建築に携わる者にとって、直接説明する能力、メディアを通じて発信していく能力、ネットに対処していく能力は必要不可欠なものになっていくと思います。「ARCHITECT」は雑誌メディアとして会員のページを設けています。

「ARCHITECT」を活用して情報発信能力を高めてください。新入会員の皆さんにとって雑誌に記事を書くことはハードルが高いと感じるかもしれませんが、避けて通ることはできない道です。今のうちから十分な備えをしておきましょう。(石田博英)

●悠々自適の生活を楽しんでいれば良いのですが、気になることが多すぎる昨今です。理事会レポートでは「横浜のマンション杭工事改ざん問題について提起あり意見交換。DB (⇔設監分離) の話題に切り込むべき / 人を信頼して頼むことの本質」とありますが議題報告にとどまらず、JIAのリーダー達がこのような事件頻発の状況でどのような意見交換をしているか、会員諸氏に知らしめるべきだと思います。むしろ「信頼され託されてない」という職能の将来こそを論じるべきで、詳細を期待したい。「支部役員会報告」も同様で、「建設業界原因説」を嘆き(託されなくなっている)「建築家の職能をもう少し一般市民に分かりやすく広報する必要」を訴える程度では危機意識が希薄です。さて東海賞の記事

の末尾に、「設計者ではなく施主(リアルユーザー・市民)が主役だとあらためて感じる」という報告がありますが、これこそ建築(設計)界は肝に銘じて忘れてはならず、怠れば衰退の道を進むのは必然と憂慮しています。かつては建築の専門教育に身を投じていた自省の念を込めて。(谷口 元)

ARCHITECT

第327号

発行日 2015.12.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 石田 壽

編集責任者 牧ヒデアキ

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>